旭山動物園ではボルネオオランウータンのモリトがお母さんのリアンに聞いています。「ふるさとってどんなとこ？」「さあ？」

1

リアンが園長に聞くと、「高ーい木がいっぱいあるとこ、生き物がたくさんいるボルネオだよ。今度行くから一緒に見てくるね」

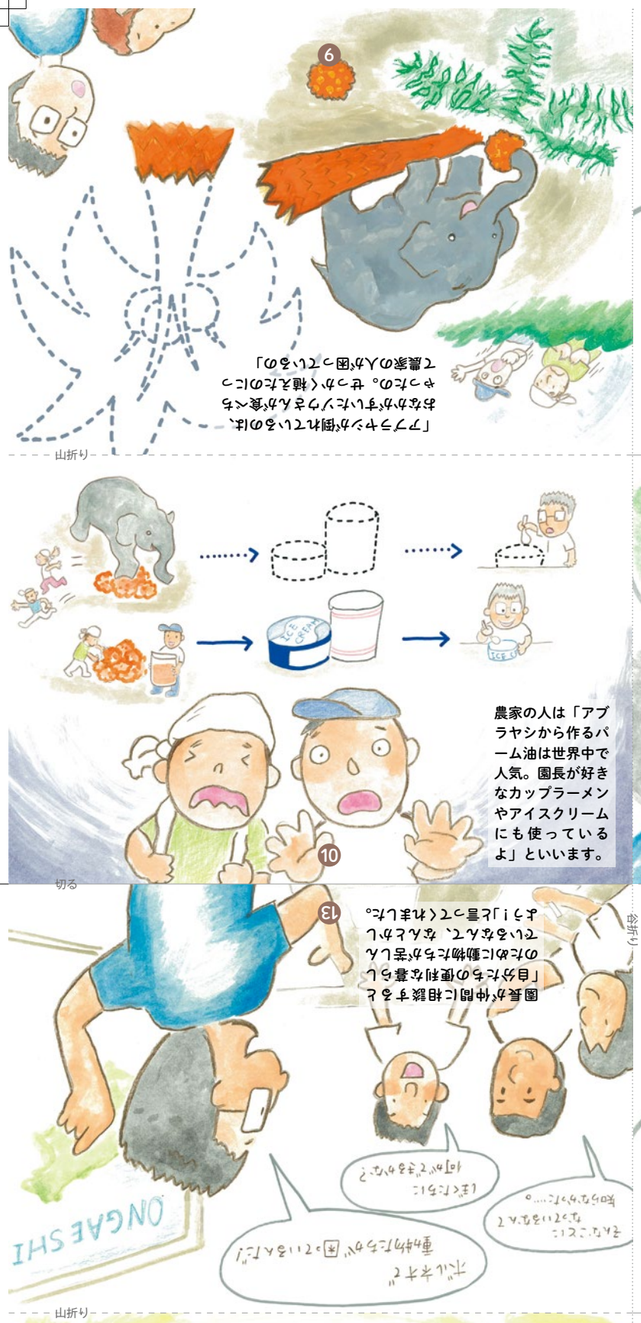
2

園長は飛行機に乗って、日本から3000kmはるか南にあるボルネオに出発しました。ボルネオは1年中、日本の夏みたいな気候です。

3

人間と動物がいっしょに暮らせる社会をつくるために、オランウータンやゾウたちがのびのび暮らせるまで、恩返しは続きます。

16



初めてのボルネオ、園長はあちこち見て回りましたが、オランウータンを見つけることはできません。「あれ、一体どこにいったんだろう？」

4

大きな実を取ったり、運んでいる人を見て園長は気づきました「アブラヤシの畑なんだ。ここはオランウータンが住めない場所なんだ」

5

オランウータンのエリナは「昔は森が広くて、私たちだけじゃなくてテングザルやシカたくさんいて楽しかったの…」

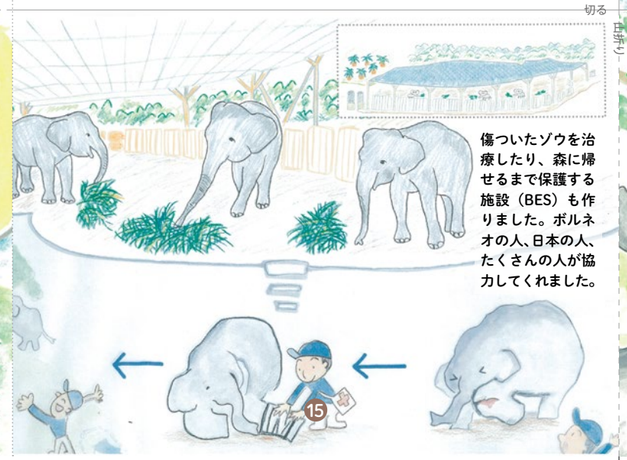
7

アブラヤシの広い畑の隅っこに、ほんの少し残っている森にいたオランウータンに園長は聞きました。「キミたちはどこにいるの？」

6

「今は森を切ってアブラヤシの畑にするので、私たちはいる場所がないの。どうすればいいのかわからない…あれを見て」

8



悩んでいた園長がやっと思いつきました。「よし、動物たちの森を人間が使っているのだから、今度は動物たちに恩返ししよう」

12

「アブラヤシが倒れているのは、おなかがすいたゾウさんが食べちゃったの。せっかく植えたのにって農家の人が困っているの」

9

農家の人は「アブラヤシから作るパーム油は世界中で人気。園長が好きなカップラーメンやアイスクリームにも使っているよ」といいます。

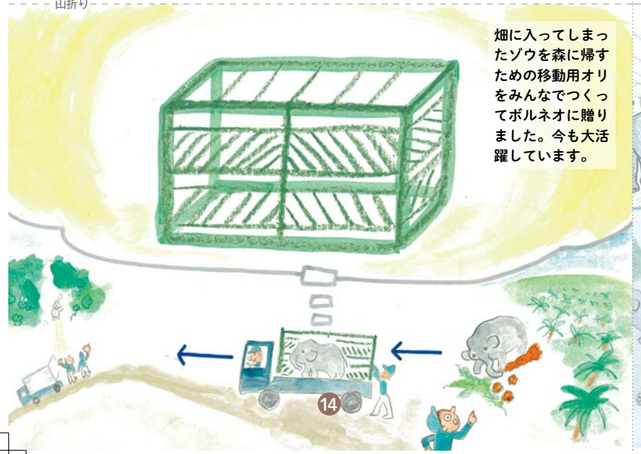
10

傷ついたゾウを治療したり、森に帰せるまで保護する施設（BES）も作りました。ボルネオの人、日本の人、たくさんの人が協力してくれました。

15

帰国した園長は、ボルネオで見たことをリアンたちに報告。悲しそうに聞いていたリアンは「園長は何かできないの？」といいました。

11



園長が仲間に相談すると「自分たちの便利な暮らしのために動物たちが苦しんでいるなんて、なんとかしよう！」と言ってくれました。

13

ずいぶんまえ
動物たちが国ってるんだ
そんなことなっていると
思わなかった…。
ぼくたちに
何ができるかな？

畑に入ってしまったゾウを森に帰すための移動用オリをみんなでつくってボルネオに贈りました。今も大活躍しています。

14